済生会熊本病院

—顔の見える関係作りを目指して—

緩和ケアセンター長　金光　敬一郎
がん総合支援室・集学的治療室　坂口　清美
がん総合支援室　野中　幸
國安　絢圭

①地域の課題

・熊本市は緩和・在宅医療資源が多いため、支援者同士の十分な関係性が構築されていない

・地域連携の課題(ニーズ)を明らかにする

・機関ごとの役割機能や職種により支援に必要な情報に乖離があり
効果的な情報共有のために、互いのニーズを知る

②どのような地域を目指すのか

・誰もが安心して医療・ケアを受けながら過ごせる地域（熊本市南区）

・支援機関同士で顔の見える連携が行え、互いの役割機能や専門性を理解し
共に課題解決に取り組むことができる地域

③課題ごとに取り組むべきことは何か

・熊本市は緩和・在宅医療資源が多いため、支援者同士の十分な関係性が構築されていない
→顔の見える連携の機会設定

・地域連携の課題(ニーズ)を明らかにする
→地域機関と課題の検討

・機関ごとの役割機能や職種により支援に必要な情報に乖離があり
効果的な情報共有のために、互いのニーズを知る
→役割機能や職種の専門性を互いに共有する

④具体的な行動計画　⑤実施時期

	誰が	何を	どのように	いつまでに
顔の見える連携の機会設定 役割機能や職種の専門性を互いに知る	緩和ケア医師 看護師 MSW	医療機関訪問	多職種で22件/年	2023年12月末までに
	院内多職種 院外多職種	ケースカンファレンス	困難事例に関して随時 先方のニーズに沿い集合orWeb開催	2023年11月開始
地域機関と課題の検討	緩和ケアセンター長	気軽に地域機関が参加できる話合いの場の設置	多職種による意見交換会形式のカンファレンス	2024年度開始
	緩和ケアセンターメンバー	南区地域包括ケア実務者会議	医療福祉相談室担当者に同行	2024年3月末までに